



太陽の子

さいたま市立常盤小学校だより
令和5年11月号(第8号)
令和5年11月1日発行

【学校教育目標】

心身ともに健康で 思いやりの心もち 主体的に学ぶ常盤っ子の育成

喜んで登校 満足して下校

【めざす児童像】

- よく考える子
- 思いやりのある子
- たくましい子
- かかわりあいを大切にする子

実りの秋

校長 三島 公夫

芸術の秋、校舎のいたるところに子どもたちの作品が展示されています。絵画や習字、観察カードや教科の学びをまとめた新聞など、どれを見ても子どもたちの想いが伝わってきます。その想いを想像しながら作品に見入っていると、つい時間が経つのを忘れてしまいます。

さて、先月、棋士の藤井聡太竜王・名人が八冠を達成しました。この対局では、藤井さんが前人未踏の八冠を達成したことが大きなニュースとなりましたが、私は、AIが各局面において勝利の可能性を評価していたことにも目を奪われました。対局は藤井八冠が138手で永瀬拓矢九段に勝利したのですが、終盤でのAIは、永瀬九段が99対1の確率で勝利すると分析していました。専門家の話によれば、この数字は100%永瀬九段の勝利を意味していたそうです。しかし、実際には123手で永瀬九段が“運命の一手”を指すことにより形勢は一転、藤井八冠の勝利となりました。

この大逆転劇に新聞の号外が発行されるなど、その日の報道は将棋の王座戦の話題で持ちきりでした。「信じられない大逆転を引き起こすのが、AIにはない藤井八冠のすごさ」というコメントや、「藤井八冠『AI超え』の一手」などのタイトルで新聞紙上も賑わいました。

AIについては、文部科学省が学校で使う際の留意点をまとめたガイドラインを公表しています。それによると、「AIを使いこなすための力を意識的に育てることは重要」としたうえで、AIにすべてを委ねるのではなく、自分の判断や考えが重要であることを子どもたちに理解させることが必要だと強調しています。藤井さんと永瀬さんの対局を見て、この一文が意味することを真に理解しました。つまり、AIが示すのは過去のデータの蓄積から分析される、その時点での傾向(確率)にすぎず、今起きているケースがその傾向(確率)通りになる保証はないということ、AIが何通りも示す候補の中から最適解を選ぶのは自分であるということなのです。

ここで、子どもの力を見取る際の留意点について考えたいと思います。私は三つあると思います。一つ目は子どもたちの学力・運動能力などの現在の力。二つ目は、今に至る背景。そして、三つ目は“その子の持ち味”です。一つ目と二つ目の分析についてはAIこそが得意とするところでしょう。しかし、三つ目については、子どもの成長を見守る大人(人間)にしかできないことだと思うのです。文科省のガイドラインにある「判断や考え」は、これに相当するのかもしれませんが。確率80%とは100回のうち80回が当たるというものですが、普通、当事者が直面する事態は1回しかありません。その1回を最善なものにするには、AIが何通りも示す候補やデータをうまく使って、最後に“その子の持ち味”を考慮してあげることが大切なのではないでしょうか。そして、このことが“その子の思い描く幸せ”を実現するきっかけになるのだとも思います。

冒頭で紹介した子どもたちの作品をもう一度よく見てみると、“その子の持ち味”がたくさん秘められていることに気が付きました。子どもたちの実りをたくさん見つけられる秋です。